

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語表現
科目基礎情報					
科目番号	0054		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	be English Expression I Standard, be English Grammar 46 & Workbook , 総合英語 be 3rd Edition (以上、いいずな書店) , プリント教材				
担当教員	大里 浩文				
到達目標					
① 1 年次までに習得した、また高専2年次で学習する文法事項を理解し、それを用いて自分の意思を英語で表現することができる。 ② 英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。 ③ 内容を理解した英文について、発音に留意しながら表現し、その内容を英語で書くことができる。 ④ 2400語レベルまでの語彙を習得し、読解や聞き取りに活用できる。 ⑤ 自学自習の習慣を確立し、英検準 2 級及び英検 2 級の合格を目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (到達目標①)	進出の文法事項を用いて、既習事項も踏まえながら自分の考えや意図を表現することができる。		新出の文法事項について、その用法を理解することができる。		新出の文法事項について、その用法を理解することができない。
評価項目2 (到達目標②)	英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。		英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえることができる。		英文を聞いても、あるいは読んでも大意をとらえることができない。
評価項目3 (到達目標③)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。また、その内容を読み手にわかりやすい適切な英語で書くことができる。		内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。また、その内容を英語で表現することができる。		まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読をしたり、その内容を英語で表現したりすることができない。
評価項目4 (到達目標④)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に十分に活用することができる。		自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に辞書等を使用しながら最低限活用することができる。		語彙習得に対する自学自習の習慣が確立されていない。
評価項目5 (到達目標⑤)	英検準 2 級及び英検 2 級に合格する。		英検準 2 級もしくは英検 3 級を取得し、英検 2 級もしくは準 2 級合格に向けて自学自習の習慣を確立する。		英検 3 級を取得するための学習習慣が確立されていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年時に引き続き、英語の学習において必要不可欠な英文法の基本的なルールを体系的に学習し、これからの高専における英語学習の基礎をしっかりと築くことを目的とする。また、自分の考えや意見を英語で表現できるようにするための土台作りも行う。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校・高専 1 年生で習得した文型・文法事項・語彙、また簡単な英文を表現するためにそれらを用いる技術。講義室：各HR教室 授業形式：講義、演習 学生が用意するもの：テキスト、ノート、授業配布プリント				
注意点	評価方法：年4回の定期試験(80%)、小テスト・提出物(20%)で評価し、60点以上を合格とする。自己評価の指針：授業で学習した内容の復習に基づき、指示された箇所の演習問題や課題に取り組んでください。また、次の授業の予習も行ってください。理解不足の箇所があれば、参考書を確認したり、教員に質問することで解決してください。 オフィスアワー：月・水 16:10~17:10				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	・ ガイダンス ・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 16 不定詞 (4)	不定詞を使う表現について、基本的事項を認識できる。	
		2週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 16 不定詞 (4)	演習を通して、不定詞を使う表現について理解を深める。	
		3週	・ be English Expression I Lesson 13 動名詞	動名詞について、基本的事項を認識できる。	
		4週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 17 動名詞 (1)	演習を通して、動名詞について理解を深める。	
		5週	・ be English Expression I Lesson 14 不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の使い分けについて、基本的事項を認識できる。	
		6週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 17 動名詞 (2)	演習を通して、不定詞と動名詞の使い分けについて理解を深める。	
		7週	既習事項の復習	前期中間までの文法事項を復習し理解度を高める。	
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。	
	2ndQ	9週	・ 中間試験返却 ・ be English Expression I Lesson 15 分詞①	分詞について、基本的事項を認識できる。	
		10週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 19 分詞 (1)	演習を通して、分詞について理解を深める。	
		11週	・ be English Expression I Lesson 16 分詞②	分詞を用いる表現について、基本的事項を認識できる。	

後期		12週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 20 分詞（2）	演習を通して、分詞を用いる表現について理解を深める。
		13週	・ be English Expression I Lesson 17 関係詞①	関係代名詞について、基本的事項を認識できる。
		14週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 21 関係詞（1）	演習を通して、関係代名詞について理解を深める。
		15週	既習事項の復習	前期定期までの文法事項を復習し理解度を高める。
		16週	前期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
	3rdQ	1週	・ be English Expression I Lesson 18 関係詞②	関係代名詞について、基本的事項を認識できる。
		2週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 22 関係詞（2）	演習を通して、関係代名詞について理解を深める。
		3週	・ be English Expression I Lesson 19 関係詞③	関係副詞や複合関係詞について、基本的事項を認識できる。
		4週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 23 関係詞（3）	演習を通して、関係副詞について理解を深める。
		5週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 24 関係詞（4）	演習を通して、複合関係詞について理解を深める。
		6週	既習事項の復習	後期中間までの文法事項を復習し理解度を高める。
		7週	既習事項の復習	後期中間までの文法事項を復習し理解度を高める。
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
	4thQ	9週	・ 試験返却 ・ be English Expression I Lesson 20 比較①	原級や比較級を用いた比較について、基本的事項を認識できる。
		10週	・ be English Expression I Lesson 21 比較②	最上級を用いた比較や比較を使う表現について、基本的事項を認識できる。
		11週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 25 比較（1）	演習を通して、原級や比較級を用いた比較について理解を深める。
		12週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 26 比較（2）	演習を通して、最上級を用いた比較について理解を深める。
		13週	・ be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 27 比較（3）	演習を通して、比較級や最上級を用いた表現について理解を深める。
		14週	・ be English Expression I Lesson 22 仮定法①	仮定法過去や仮定法過去完了について、基本的事項を認識できる。
		15週	・ be English Expression I Lesson 23 仮定法②	仮定法を用いる表現について、基本的事項を認識できる。
		16週	後期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
評価割合				
	試験	小テストや課題への取り組み	合計	
総合評価割合	80	20	100	
基礎的能力	80	20	100	
専門的能力	0	0	0	